

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 21 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520243

研究課題名(和文) 日本近世期における中国白話受容の研究 『陰陽録』を中心に

研究課題名(英文) The research about the influence of novels in baihua Chinese upon Japanese literature in Edo period

研究代表者

近衛 典子 (KONOE, NORIKO)

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号：20178297

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円、(間接経費) 1,170,000円

研究成果の概要(和文)：日本近世において当時の現代語である中国白話の世界がいかにかに受容されたか、という問題意識のもと、1年目は文献の収集と分析を行った。中間報告を兼ねて2年目の2012年8月27日～28日、中国ハルビン工業大学において「日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学」と題して中国人研究者とともに国際シンポジウムを実施。『陰陽録』を始めとする諸作品について活発に討議し、新たな視野を獲得した。更に研究を進め、『雨月物語』『吉備津の釜』の「呪符」の表現は近世初期に渡来した明僧が日本にもたらした道教の霊符を踏まえたものという仮説に至り、研究代表者が日本近世文学学会において口頭発表、投稿論文が学会誌に掲載された。

研究成果の概要(英文)：On the first year, we collected the materials and these and analyzed them each other, having the awareness of the problems involved about how people in Edo period accepted the Chinese culture in the Ming and Qing Dynasty. On the second year, we had the symposium and held discussions about "Inshitsu-roku" and the other topics with Japanese and Chinese researchers at the Harbin Institute of Technology on 27th-28th August 2012. Through this symposium, we got the new field of vision about the Taoism in Japan in Edo period. On the last year, the representative of this research presented the result of the analysis about "Ugetsu-monogatari" and Taoism at the academic conference (the Academic Society on Japanese literature in Edo period), and the thesis was accepted and published in the journal.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本近世小説 中国白話 陰陽録 善書 雨月物語 道教 霊符 妙見信仰

1. 研究開始当初の背景

日本近世(江戸時代)文芸の中に当時の現代中国語である中国白話文芸の影響の大きいことは周知の事実である。また近年、より広く中国白話を捉え、倫理道徳を説く善書や百科事典的な性格を持つ日用類書といった、文芸性が比較的希薄とされてきた実用書からも多大な影響を受けていることが指摘されている。たとえば浄土宗の忍漱、曹洞宗の心越という二人の僧侶は『陰隲録(いんしつろく)』や『功過自知録(こうかじちろく)』といった善書を刊行しているが、彼らは単に善書を刊行したのみならず、これを積極的に受容し、かつ布教に利用していることなどが明らかとなってきた。このような実態から、「陰隲」の教えが一般にも深く浸透して、庶民の日常における道徳理念がそれと自覚されないままに規定されていったのではないかと、というテーマが浮上してきた。

2. 研究の目的

「陰隲」とはわかりやすく言えば、「人の行いの善し悪しは天が見ている」という教えである。この概念規定は、道教に独特に現れるものであるにも関わらず、その教えが日本の神道・仏教とも微妙に通底するがために受け入れられた思想である。ゆえに、陰隲をおもに説く「陰隲文」「陰隲録」は多様な受容形式を見せながら本邦の諸文芸に取り込まれていく。一方では、本邦には受け入れがたいものはまさに「外来」思想として排除の方向性を内包しながら、それでもその考え方自体は身近なものとして享受されてきたのである。

この実態が単なる近世期において完結しているのではなく、現代においてもきわめて大きな影響力を有しているが故に、この実態の解明は喫緊に求められていると考えている。これがすなわち、本事業がこの解明を目的とする所以である。

3. 研究の方法

研究の遂行に当たっては、研究代表者、分担者、連携者が各自、主に次の三つの方法で研究を推進した。

- (1) 文献の調査・収集
- (2) 資料の調査・収集
- (3) 実地調査

また、研究会の開催、メールでの会議等の手段を用いてそれぞれの成果を発表、問題点を明確化して共有し、その後の各自の研究に生かすこととした。

二年目には中国における国際シンポジウムの開催を企画、中間報告の場とし、中国人研究者や学生とも交流、ここでの討議を通じて

明らかになった問題点をその後の研究に反映させることによって、研究の深化を図ることを目指した。

さらに、三年目には、それまでの研究から導き出された成果を広く世に問うため、学会において研究発表を行うこととした。

4. 研究成果

(1) 研究開始に当たって

研究を推進するに当たり、まず2011年6月10日、駒澤大学会館246において会議を開催、研究代表者、分担者、連携者の全員、および助力者として申英蘭が参加し、研究会および打合せを行った。研究会においては、近衛典子が「陰隲文の諸本について」、福田安典が「庚申について」というタイトルで研究報告を行って今後の研究の方向性を示し、これに基づいて各研究者の分担を決定、各自がそれぞれの問題意識に基づいて研究を推進することを確認した。また、会議後、駒澤大学禅文化歴史博物館において本研究と関連性の深いテーマでセミナーが行われたので(「紙銭の世界」16:30~18:00)、全員で参加・聴講し、中国文化への理解を深めた。

(2) 資料の収集

善書を含む中国白話文芸の関連資料として、『和漢陰隲伝』『和語陰隲文絵抄』『文昌帝君陰隲文』『陰隲文図註』『鎮宅龜蛇拓本』『鎮宅靈符』『夢合判断大成』『諸夢吉凶和語抄』等、多くの資料を取得。さらに、これらに関連する文献を収集・読解し、また作品そのものを分析することを通じて、当該研究課題の推進に必要な知識を獲得した。

(3) 国際シンポジウムの開催

当初の企画通り、本研究二年目の2012年8月27日~28日に中国のハルビン工業大学において、国際シンポジウム「日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学」及び研究発表会、交流会を開催した。公開シンポジウムにおいては、研究代表者・研究分担者による以下のような基調発表を行った。近衛典子「『雨月物語』と善書」、川上陽介「『陰隲録』とその周辺」、田中則雄「大江文坡の教訓思想と文芸」、福田安典「陰隲文享受の一樣相 高崎庚申寺刊『庚申祭式』を読む」。これを受けて活発な討議が行われた。この討議を通じて、我々科研メンバーは従来の研究



に欠けていた新たな視点に気付くことができ、大変有意義であった。

さらに国際交流という観点から言えば、この討議が、双方の研究者が自国文化を振り返る良い機会になったと考える。たとえば、庚申塔や庚申塚は現在でも日本各地に残存し、日本近世期の庶民の日常に根ざした信仰の姿を知るよすがとなっているが、この庚申塔が本来は中国由来であるにも関わらず、会場の中国人研究者や学生にはそのことがほとんど認識されていないという事実が浮き彫りになった。このシンポジウムが、日中双方の研究者が相手の文化を理解し尊重しつつ、改めて自国文化を振り返る契機になったとしたら、望外の喜びである。

(4) 現地調査

ハルピンでのシンポジウムを通して、日本における道教の影響が従来考えられている以上に大きいのではないか、という新たな視点を得ることができた。そこで、帰国後にはおもに、日本近世期に中国から渡来した禅僧ゆかりの地や、近世の町人たちが信仰したと思われる鎮宅霊符社などを現地踏査し、当時の道教の流布の一端を調査した。具体的には、後水尾院が開き千呆性佞が住持したという閑臥庵(京都市)、水戸徳川家に仕えた曹洞宗の僧侶、東臯心越ゆかりの祇園寺(茨城県水戸市)及び達磨寺(群馬県高崎市)、大阪の中心地にあり霊符社も現存する大阪天満宮、江戸当時は千日前にあつて奇瑞を見せたという自安寺、現在でも鎮宅霊符社を祀っている星田妙見社(大阪府交野市)、江戸中期以降に妙見信仰で賑わった能勢妙見山(大阪府豊能郡)、江戸期から数年に一度の開帳時に朱符を授与している川崎大師(神奈川県川崎市)などである。また日本の道教を相対的に把握するために、韓国ソウル特別市の関帝廟、台湾の娘々廟なども数カ所調査した。

(5) 学会における成果の公表

ハルピンでの国際シンポジウムにおいて新たな問題点が明確になったため、特に近世の占いに着目して研究を重ね、研究代表者が2013年6月2日、東京学芸大学(東京都三鷹市)で開催された日本近世文学学会春季大会において、「磯良の襲撃とまじない 『雨月物語』の当代性」というタイトルで研究発表を行った。さらにこの内容をまとめ投稿した論文が採用され、日本近世文学学会の学会誌『近世文藝』第99号(2014年1月)に『雨月物語』の当代性 夢占と鎮宅霊符」として掲載された。

以上、大きく5点について成果をまとめたが、本研究は当初の目的を十分に果たしたのみならず、日本近世期における文学と道教との関係という新たな地平を切り開いたと自負している。今後もさらに研究を重ねていきたいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15件)

近衛典子、『雨月物語』の当代性 夢占と鎮宅霊符、近世文藝、査読有、99号、2014、pp59-72

田中則雄、大江文坡における思想と文芸、読本研究新集、査読有、6巻、2014年、pp87-103

福田安典、『好色一代男』「おもくさ」考 忍頂寺務の指摘をてがかりに、上方文藝研究、査読有、11号、2014年、印刷中

入口敦志、明清版本は日本においてどう様化されたのか 日中韓の比較からみる十七世紀の諸相、アジア遊学、査読無、171号、2014年、pp202-211

木越治、『八犬伝』の隠微、近世部会報、査読無、8号、2014年、pp16-17

福田安典、栗田禱堂の煎茶 大坂文人との関わりについて、上方文藝研究、査読有、10号、2013年、pp45-54

木越治、『春雨物語』論のために テキストの性格と改稿の問題をめぐって、近世文藝、査読有、97号、2013年、pp27-40

入口敦志、権力と文学 『帝鑑図説』から見えてくること、国文研ニューズ、査読無、30号、2013年、pp1-4

近衛典子、寛政年間の秋成のこと二、三 秋成の著書廃棄・秦良との交流、駒澤国文、査読有、49巻、2012年、pp169-181

田中則雄、読本における尼子史伝、山陰研究、査読有、5巻、2012年、pp1-15

福田安典、平賀源内の本草学・鉾山開発 産学連携を視野に、静電気学会誌、査読有、36巻4号、2012年、pp170-175

近衛典子、<研究史を知る> 秋成の浮世草子、西鶴と浮世草子研究、査読有、5巻、2011年、pp229-233

田中則雄、浜田藩女敵討事件の実録と読本、山陰研究、査読有、4巻、2011年、pp1-15

木越治、外国人研究者のための文献案内 / 研究必携(近世文学の部)、上智大学国文学科紀要・別冊、査読無、2011年、pp46-68

入口敦志、楼閣の唐破風 異世界表現の日

中、東亞文化的伝承と揚棄、査読無、単行本(中国書籍出版社刊)、2011年、pp252-262

〔学会発表〕(計 16件)

近衛典子、『雨月物語』と道教、原州古版画国際学術大会、2014年5月24日、韓国古版画博物館(韓国・原州市)

川上陽介、日本近世における中国笑話の受容について 遠山荷塘施訓『訳解笑林広記』考、北陸古典研究会、2014年3月29日、金沢大学サテライトプラザ(石川県金沢市)

近衛典子、江戸時代の霊符、絵入本科研ワークショップ、2014年3月6日、国文学研究資料館(東京都立川市)

近衛典子、Amateur's practice of Japan's Noh and Kyogen in Edo period、The workshop-conference: Japan's Noh Theatre and Philippinized Western Performance Traditions、2014年2月10日、フィリピン大学ディリマン校(フィリピン・マニラ市)

入口敦志、日本の木版刷り表紙模様について 嵯峨本を中心に、韓・中・日古版画国際学術大会、2013年10月11日、韓国古版画博物館(韓国・原州市)

福田安典、西鶴作品を、注釈する、西鶴研究会、2013年8月29日、青山学院大学(東京都渋谷区)

入口敦志、仮名草子に見る和様化の諸相、韓国国立中央図書館交流会、2013年7月31日、韓国国立中央図書館(韓国・ソウル特別市)

近衛典子、磯良の襲撃とまじない 『雨月物語』の当代性、日本近世文学学会、2013年6月2日、東京学芸大学(東京都小金井市)

入口敦志、絵入刊本の様式についての比較検討 『融通念仏縁起』を中心に、韓・中・日古版画国際学術大会、2012年10月13日、韓国古版画博物館(韓国・原州市)

木越治、文語の力 読本のことばを手がかりに、日中共同シンポジウム/日本と中国、中国と日本 文学からの接近、2012年9月1日、西北大学国際交流学院(中国・西安市)

近衛典子、『雨月物語』と善書、国際シンポジウム 日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学、2012年8月27日、ハルビン工業大学(中国・ハルビン市)

川上陽介、『陰騭録』とその周辺、国際シンポジウム 日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学、2012年8月27日、

ハルビン工業大学(中国・ハルビン市)

田中則雄、大江文坡の教訓思想と文芸、国際シンポジウム 日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学、2012年8月27日、ハルビン工業大学(中国・ハルビン市)

福田安典、陰騭文享受の一樣相 高崎庚申寺刊『庚申祭式』を読む、国際シンポジウム 日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学、2012年8月27日、ハルビン工業大学(中国・ハルビン市)

入口敦志、日中韓勸誡図刊行考、国際シンポジウム 日本文学の中の外国文学、外国文学としての日本文学、2012年8月27日、ハルビン工業大学(中国・ハルビン市)

木越治、『春雨物語』の彼方へ、日本近世文学学会、2012年6月24日、明星大学(東京都日野市)

〔図書〕(計 2件)

福田安典、ペリかん社、平賀源内の研究 大坂篇、2013、312

入口敦志、ペリかん社、権力と文学 柳營連歌、『帝鑑図説』、2013、292

6. 研究組織

(1) 研究代表者

近衛 典子 (KONOE, Noriko)

駒澤大学・文学部・教授

研究者番号: 20178297

(2) 研究分担者

川上 陽介 (KAWAKAMI, Yousuke)

富山県立大学・工学部・准教授

研究者番号: 00574451

田中 則雄 (TANAKA, Norio)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号: 00252891

福田 安典 (FUKUDA, Yasunori)

日本女子大学・文学部・教授

研究者番号: 40243141

(3) 連携研究者

入口 敦志 (IRIGUCHI, Atsushi)

国文学研究資料館・助教

研究者番号: 80243872

木越 治 (KIGOSHI, Osamu)

上智大学・文学部・教授

研究者番号: 10109093